

**特定非営利活動法人エティック**  
**「子どもの未来のための協働促進助成事業」**  
**助成事業概要**

|                                     |  |
|-------------------------------------|--|
| 事業名                                 | 未来につなぐ持続可能な地域社会を目指した、子ども・若者とその家族のための「生きるを支える」多機能的支援事業  |
| 実行団体                                | 一般社団法人小豆島子ども・若者支援機構  |
| 対象とする子ども・若者（もしくはその家族等）の状況や抱える課題・ニーズ | 香川の子どもの貧困率は10人に1人と算出されているが、島内状況では全国平均と同様6～7人に1人以上という感覚。課題は社会構造的な要因による経済的困窮から抜け出せない家庭等に属する子ども・若者の重層的困難。努力が足りないと、原因が自己責任化される。匿名性の低さによる地域の中での孤立度は都会に比して深い。不登校～学齢期終了後は自ら声を上げなければアウトリーチがとられることがなく表明されないニーズが置きざりになっている。公立学校以外に機能する社会資源等はあるものの、生活困難を改善する目的で周囲からの登校圧迫や、学校に行かないと外に出てはいけな言われ家に閉じこもらざるを得ない地域環境が、虐待の高リスク化や引きこもりの助長に進展。公共交通機関の利便性の低さで、外出に制限があり、移動の不利益などにより生じる、体験値や経験値の格差が、貧困の世代間連鎖に結びついている。 |
| 事業概要                                | 定期的な供食支援を伴う居場所の開催や一人ひとりの子どもに添った個別的なニーズを聴きながら支援活動に当たっている。中でも、移動支援への要望が高く、公共交通機関の不便さからくる病院や役場への同行や送迎の依頼が頻回にある。島内事情から、ピアサポート等も展開しており、多世代交流が促され地域の活性化が促進されている。まだない言葉であるが、生活を支えるための「子ども・若者版の小規模多機能的支援」とでもいったような子供や家族の自立のための生活支援活動が展開されている。また、ひとり親の日常生活自立支援事業や、困窮世帯子弟の学習支援機関との連携も始まっており、気軽に相談できる窓口として活動を展開している。  |
| 事業実施地域                              | 香川県小豆郡全域   |
| 助成総額                                | 11,300,000円  |
| 評価関連経費                              | 565,000円   |
| 事業実施期間                              | 2020年 7月 ～ 2023年 3月  |

**■選定の理由**

- 人口3万人以下の小規模都市で、更には島という地理的条件下で行われる取組として非常に貴重。少子高齢化の進む地方都市におけるモデルケースとしての発展が期待できる。
- すでにボランティアな活動を基本に、島内の関係者の協力関係がつくられ始めている。本助成金の活用により、地域内外のリソースを使って、チェンジ・エージェントとしての団体の成長とエコシステムの醸成が期待できる。
- ガバナンス体制を担保することで、事業を強力かつ安定的に推進することを期待する。